第3回和光市勤労福祉センター在り方検討委員会会議録

■日時：令和4年4月27日（水）18：00～19：40

■場所：和光市役所6階 603会議室

■出席者：浜口 武 委員（1号委員）
田中 和巳 委員（2号委員）
真崎 聰一郎 委員（3号委員）
井川 美絵子 委員（3号委員）
田中 信幸 委員（4号委員）
中蔦 裕猛 委員（5号委員）
喜古 隆広 委員（5号委員）

■欠席者：なし

■傍聴者：なし

■事務局：産業支援課長 平川、産業支援課課長補佐 大里、
産業育成支援担当統括主査 南雲

■議 事：(1)和光市勤労福祉センター在り方検討委員会報告書（案）について

1 開会

○事務局（大里）

本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、第3回和光市勤労福祉センター在り方検討委員会を開会いたします。わたくし、進行を努めます、産業支援課の大里と申します。よろしくお願いたします。

議題に先立ちまして4月1日付の人事異動に伴い第5号委員が変更となり喜古市民環境部長を任命いたしました。一言ご挨拶をお願いいたします。

○喜古市民環境部長（挨拶）

○事務局（大里）

4月1日付の人事異動に伴い変更になった事務局を自己紹介という形でさせていただきます。

○事務局（平川）（自己紹介）

○事務局（大里）（自己紹介）

○事務局（大里）

続きまして本日の資料の確認をさせていただきます。

まず、次第及び名簿でございます。あらかじめお配りしております、

資料1 第2回会議における勤労福祉センター在り方に対する意見

資料2 和光市勤労福祉センターを直営にした場合の開館時間について

資料2については、事前にお配りしたものに訂正箇所がありましたので、本日お配りするものと差し替えをお願いいたします。

資料3 和光市勤労福祉センター在り方検討委員会報告書（案）となります。

不足しているものがありましたらお知らせください。大丈夫でしょうか。

では開会にあたりまして浜口委員長よりご挨拶申し上げます。

○浜口委員長

皆さんこんばんは。委員長を務めさせていただいています和光市商工会事務局長の浜口と申します。よろしくお願いいたします。

昨日、商工会の理事会がありましてやっと決算もようやく固まったところです。なかなか厳しい内容になっていますが、商工会というのは市内の事業所の支援をすることでなっております。そういう中でコロナの影響、原油高騰の影響を受け大変な思いで経営を続けている、そういった事業所に経営支援といったアドバイスをしたり専門家を連れてきたり、経営を少しでも安定させるというような支援をさせていただいているところです。

アクシスについても運営方法の検討など、似ているようなところがあるのかもしれませんが。今日は、前回の会議で皆さんにいただいたご意見をまとめた報告書（案）についてご検討をお願いします。よろしくお願いいたします。

○事務局（大里）

浜口委員長ありがとうございました。では、これ以降の議事進行からは、浜口委員長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

2 議事 和光市勤労福祉センター在り方検討委員会報告書（案）について

○浜口委員長

それでは、議事に入ります。本日の議題は(1) 和光市勤労福祉センター在り方検討委員会報告書（案）についてとなります。その前に資料1の第2回会議における勤労福祉センター在り方に対する意見について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（平川）（資料1について説明）

（補足説明/アクシスの使用年数及び設置場所について）

○浜口委員長

ただ今の説明につきまして、ご確認をお願いいたします。また補足説明もあり

がございました。よろしいでしょうか。

次に資料2の和光市勤労福祉センターを直営にした場合の開館時間について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（平川） （資料2について説明）

○浜口委員長

ありがとうございます。開館時間の一部変更、休館日の一部変更ということで提案していただいております。

運営方式の見直し時期は何年ごとになるのでしょうか。

○事務局（平川）

見直しの時期は、直営になった後5年を目途に考えております。

○浜口委員長

今回、決まったとしてもまた5年後には変更の可能性があるということですね。

○事務局（平川）

はい、その通りでございます。

○浜口委員長

わかりました。ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

○真崎委員

利用者からの立場としての意見になってしまいますが、全体を考えるのならばこれでやむを得ないと思いますが、質問なんです、1時間短縮するということは、人件費を抑えるという考えですね。利用者から考えると、ここは勤労者、働いている人のためのセンターですよ。それを9時閉館でいいのかということです。平日仕事が終わって来る人もいるわけです。日中仕事で来れない人もいますので、時間を1時間延ばしていただいたという経緯もあるのですが、利用頻度はどれくらいなのか。先日のアンケートを見ましても、時間帯については入ってなかったんですね。この時間帯は人がいないんだということならば当然無駄なので短縮して経費を抑えるべきところだと思います。ですが、時間を延ばしてサービスをするというのを考えて、まあ24時間やっているところもあるからいいんじゃないかということもあるんですが、利用者側からみて時間を縮めるということは人件費を抑えるということで仕方がないなあと。また利用者がその時

間帯いないから縮めるというのであれば納得いきます。これが一つ目です。

2つ目は、利用者からすると休日に行きたいんです。平日より休日、土曜日曜そして祭日のほうが利用者が来ている。祝祭日については勤労青少年ホームは休みなんですよね。役所的な考えになってしまうと祝祭日は休みですと。市民にサービスを与えるのであれば、やはり土日祝祭日というところで開所しなければいけないのかなと利用者側からは思います。そこで人件費が発生するなど、後で修繕費の話もしますけれど、お金の話になると何も言えません。

時間に関してはそう感じました。

○井川委員

少し補足で私も思ったんですが、勤労者の立場でいうと、例えば美容室の人たちは火曜日が休みだったり、飲食業の人は月曜日が休みだったり、そういう平日休みの人たちがいるのですが、アンケートなどで使いたい日にちを皆さんに聞くことがあってもいいのかなと思います。

それと5年で見直すというお話でしたけれども、5年は長いと思います。1年ごとデータを積み重ねて検討していったほうがいい。変えるのは3年とか5年でいいのかと思いますが、今決めて5年後まで何もしないというのは違うのではないかなと思いました。

○浜口委員長

今のご意見に対して、事務局お願いいたします。

○事務局（平川）

ご意見ありがとうございます。

現状のアリーナの状況ですが、夜間利用に関しましては、大体夜7時から2時間あるいは3時間の利用の方がいらっしゃいます。夜10時まで利用する団体数は少ない状況です。1か月あたりのアリーナの稼働率は大体40～50%となっています。休日に利用したい勤労者が多いというのは、アクシスの利用状況も土日祝祭日が多いということから私共も把握しております。そこは開館をして、利用者の方にも利用していただければと思っております。

勤労者のことで、井川委員からありましたように、火曜日が休みだったり、飲食業は月曜日が休みだったり、企業によって様々に休日が異なる状況もありますので、今後も利用者のアンケートなどをいただきながら統計を取っていきたいと考えております。

また、見直し期間の5年は長いというのは、認識するところがございますので、3年から5年のスパンの中で見直しの時期を考えていきたいと思っております。一方、1年ごとに変わるということと利用者の皆様も混乱するかなということもございますので、バランスを見て、コロナの状況も考え、3年から5年で対応を

考えてまいります。

○浜口委員長

ありがとうございます。ほかにご質問ご意見はございますか。

○真崎委員

時間帯の変更は直営に変わったことを前提に決めていらっしゃるのですか。

1週間ごとに行って実績を見てきました。皆さんどうしているのかなと思っていたのですが、今はほとんど利用している人はいません。皆さん、時間をどのように使われるのかは私にもわかるのですが、現在この1か月間ほとんど利用していないです。私は仕事が終わって行って9時頃まで運動してお風呂に入りますが、必ず10時前までには出るようにしています。何日か見ていたのですが、何人かはいます。いないわけがないです。仕事が終わって来るのかはわかりませんが、働き方が変わってきていて色々な方がいます。人数や割合から効果がないと言われてしまえばそれまでですが、もう1回データを取っていただきたい。役所ではなく担当がいればもっとこまめに付けられますよ。一時期間だけでいいです。それを平均化すればいいんです。時間に関して考えていくのならば、そういうところを煮詰めて、これは仕方ないとなれば利用者さんも納得ができるんです。

○浜口委員長

アンケートを実施しデータを取って、柔軟に3年から5年で対応するという感じでよろしいですね。

○真崎委員

これで決定するのはちょっと早いという気はします。これは一つの案ですよ。もう決定ですか。先ほど提案とおっしゃたので、提案を再検討するということですよ。

○井川委員

利用者の声から言うと何とか存続できないのかということです。

○真崎委員

根本的にはそうなんです。今までやってきたのに何でなくなるのか。使わない人には関係ない。使っている人は何とかしてと。

委員として出ていることを知っている方は、何とかしてほしいと私に言ってきます。

○井川委員

私も絶対なくなっほしくないと言われます。

○浜口委員長

施設自体がなくなるわけではないんですよ。

○事務局（平川）

そうですね、建物自体はなくなりません。運営について指定管理といったところから直営にさせていただく。お風呂の部分とアスレチックジムの部分は止めさせていただく・・・

○真崎委員

といった前提で今話し合っているのですね。

○井川委員

最初ここに参加しようと思ったのは、何とかしたいという気持ちで、解決できる問題があるのなら案を出したいと思っています。

どういう形で継続するのは別として、テニスクラブに行っているのですが、最近在宅ワークのため、お昼に男性の人が増えてきているんですね。もっとアクシスというのを SNS などを使って告知すれば、もっと利用者は増えるのではないかなと思いますね。

○浜口委員長

利用者を増やすということであれば、勤労者、会社の方たちが商工会の会員さんに 1,000 社近くいて、会員さんに毎月案内を送っているんで、こんな素晴らしい施設があるんだよという案内をして利用者を増やしていくことはできるかもしれないですね。

○井川委員

私はコロナ過になってから和光市のツイッターをフォローしているのですが、いろいろなところで働いている人がいる中、そういう人たちにも届く周知の仕方をもう少し考えた方がいいのではないのでしょうか。

○真崎委員

勤労者は和光市内で働いている方、和光市外で働いている方がおりますよね。そういった方は区別できませんので住民という対象になりますよね。そういう宣伝の仕方はちょっと小さくなってしまおうなと思ひまして、もっと広範囲にということ。

今回アクシスは 4 月号広報を見てみると通常通りに案内が出ています。何も変わっていません。止める止めないは全然誰も思いません。やっているんだな、

夏になったら行こうかななど考えるている人もいます。

縮小の方向で行くのならば、こういうことが起きていますよということを市民に知らせなければいけないと思うのですが、知らせていいのか悪いのか、決定していないから知らせられないのか。今移行している最中ですから、そういう段階も必要かなと思うわけです。とりあえず変更するのは延長したんですよ。

○浜口委員長

そういったスケジュールはどうなっていますか。

○事務局（平川）

昨年12月に、いきなりで申し訳なかったのですが、今後のアクシスの在り方について、アクシス利用の皆様へという形で令和4年4月以降は以下の通り運営する予定ですよというポスター、チラシで周知をさせていただきました。

アスレチックルーム、お風呂、シャワーを含む閉鎖、休館日の変更、時間の短縮、各教室の終了。アリーナ、会議室和室の利用は今まで通りという内容のお知らせをさせていただいています。

その後、利用者を対象に、アクシスの今後の在り方についてアンケートを取らせていただきました。3月いっぱいアスレチックジム等の廃止を予定していたけれども、3月に在り方検討委員会を新設し、今後の方向性を検討することになりましたというお知らせで止まっている状況でございます。

議会は指定管理として9月分までの運営費の予算を認めていただいております、10月以降の運営については再度議会に提出する形になっております。

運営の方も在り方検討委員会での意見を頂きながら、直営の在り方についてご説明をといったところでご理解をいただきたいと思っております。今後、ご指摘いただいた通り、広報の方法についても、講座のお知らせに留まらず、状況等のアナウンスも必要だと考えております。貴重なご意見ありがとうございます。

○井川委員

市民として納得できるのは、アクシスはなくなりますが予算を使って代替でこういうことが可能ですよとか誘導していただければ、皆さん納得するんじゃないでしょうか。「なくなりますが、以上です」ではなくて、その予算を継続的に健康管理やそういうところに配分されますみたいなことができないのかと思います。

○浜口委員長

次の説明の中の報告書（案）で予算について書かれているので、先に説明していただいたほうがよろしいのではないのでしょうか。

では事務局、説明をお願いします。

○事務局（平川） （資料3について説明）

○浜口委員長

ご説明ありがとうございます。前回の会議でもありましたけれど、財政状況が大変厳しいというところですよ。提案ということで最後にあった方向性、期待される役割、この辺が今後どのようにしてほしいかという報告書になります。

こういった報告書を提出するということですが、全てかなえられるわけではありませんが、提案やこういった意見がありましたということを経営報告書にまとめて提出するということです。

先ほどの時間短縮ですとかアスレチック、お風呂を縮小する、この辺のこの意見があったのなら、そういったことも盛り込んだほうがいいのかもしいかなですね。皆様いかがでしょうか。

○真崎委員

利用者からするともう仕方がないなという説得力のある文章でございます。しかしですね、報告書としてはいいですが、ひとつ言いたいのは、今の運営や利用は9月末までで、今後の運用方法を考えなければいけないということで、これを早期に作り上げなければいけないのかなと思うのです。ここまでこの5年間修理費が膨らんできたのを先延ばしにして来たのは、もうちょっと何とかならなかったのかなあと。ただ今となってお金がないのではありません。これはもうみんなも理解します。この5年間、人件費がずっと変わらず修理費も増えてきている。何とか打つ手はなかったのか。修理をしないまま先延ばしにしてきた。もう先延ばしにはできないよと言われると市の事業計画に基づいて検討をしなければならないと。

だけど、こういう老朽化というのは全部に共通しているわけです。老朽化と費用。当然何年何十年と経過していけば、先ほど30年とか60年目標ですよとお話の中にありましたが、そういった費用を工面しなければいけない。長期的なビジョンを考えたとき、建物ですから両方を含めて管理の在り方も見直しも必要ですよ。

修理費約300万円から400万円かかっているんですね。人件費1人減らすと300万円。平均ですよ。そうすると、今会社やっていますけど、企業努力として人1人減らして効率的な方法を5年間考えてきたのか。常時トレーナーをつけなければいけないのか、または一人で対応しなければいけないのか、全て安全のためというのならやむを得ません。

そういう認識のもとで、今後やっていかなければいけないかなと見ていて感じました。将来・未来はあるわけですから。ちょっと聞いているとこれから使っていこうという利用者と感覚が違うかもしれないのですが、何とか手を打っていこうと。今後の運用の在り方に際してもそういったことが発生してしまうん

ではないかなということ、ここだけではないということ、を思いました。

直営式に持って行かないといけない。ということは、修理費がかかるサウナはなくなりました。今止めています。お風呂も止めます。ジムも止めますと段階的に失くしていくことも考えられます。そういうことも検討して、順番にだったら利用者は納得しますが、ここまでスパッと切られてしまうと何でと。

こういう案内はやめてほしいんです。10月に審議をして12月に「こうになりましたから今後よろしく」という案内が在りました。どこから発信されているのかと思ったら産業支援課からでした。どうなってるのかと私も思ったのですが、みんな共通の考えです。

今後のアクシスの在り方を考えた時、産業支援課の提案は、もちろん利用者、市民のためでしょうけれど、イコール経営者のためです。

この報告書は非常によくできています。そういった意見です。

○浜口委員長

貴重なご意見ありがとうございました。そういった声もこの中の盛り込んで報告ということでまとめられてもいいのかなと思います。

○真崎委員

土地に関しては、こういうものがありました。この土地は30年とか40年前、水田で防災で現在水害何とか・・・

○喜古委員

荒川が氾濫した場合の浸水想定区域を国が示しており、あわせて和光市で独自にハザードマップを作成しているということです。

○真崎委員

駐車場に水が溜まって動けなくなったことがありました。

○喜古委員

溜まるように作ってあるんです。

○真崎委員

すぐに溜まりますよね。そうしたら緊急避難場所として使うメリットはないんですね。

アクシスの在り方とって、60年後どうなのか。こんなに災害が多い中で、昔は考えなかったんですかね。こんなに災害があって、本当に安全な場所という大きな問題を残して先の人に申し送りしなきゃいけないのかなと。

こういったものを私は写真を撮ったのですが。

○中蔦委員

坂下土地改良区の記念碑ですか。

ハザードの指定とアクシスとの時間差があると思うんですね。ハザードが後ですからタイムラグもあります。あと荒川の和光市と戸田市の間に彩湖という大きな調整池がありますが、荒川の氾濫がありますから、国はさいたま市、川越市、上尾市にまたがるところに、同じ規模の調整池を作る予定で治水対策を計画しています。

○真崎委員

ではハザード消えますね。

○中蔦委員

可能性はあるかもしれません。

○真崎委員

そういうのを知らないと私みたいに心配するわけですよ。

○中蔦委員

広報6月号でそういった記事を書きます。

アクシスのことで、事務局から説明があったんですが、今後勤労者のスキルアップ、職業能力のスキルアップだったり、そういったものの環境整備という位置づけがありますので、規模縮小する方向でご検討いただいているんですけど、その暁には縮減した経費をしっかりと勤労者のための環境整備や設備投資ですね。そこはしっかりと新しいアクシスの形を市民の皆様にご理解いただきながら進めた方がいいのかなと思います。

○真崎委員

アクシスはリニューアルするんですよね。これ以上お金はかけられない。ただし直営方式にして浮いたお金で再投資をして行くと。

○中蔦委員

エリアマネジメントの考え方なんですが、再投資をするというのが一つの方向性かなと感じています。

○喜古委員

そのためには、利用者層も変わってくる可能性もありますので、その時には利用者の声を適宜聴きながら、どういう施設の在り方がいいのか検討していきたいと思います。

○真崎委員

ぜひ若い人の希望を聴いていただきたいなと思いますね。

○井川委員

そういうのはいいと思います。例えばコンピューターの講座とか英語の講座など安く学べますとか、空いている時間を使ってスキルアップできるような魅力的なカリキュラムがあれば集客も望めるのではないかなと思います。

○喜古委員

おっしゃる通りだと思います。今コロナ過の中でそういった望む声も出てくると思いますので、そういった声を頂きながら施設の環境整備をしていきたいと思います。

○真崎委員

勤労青少年ホーム、ご存じだと思うんですけど、私は週1回音楽室を使わせてもらっています。今後の在り方としては勤労青少年ホームに似てくるのかなと思っていました。勤労青少年ホームは教育があって就職があって、若い人にはかなり価値があると思いますが、35歳以上の私も空いていればということで使わせてもらっています。

○中蔦委員

大変人気がありまして、なぜ人気があるのかというと貸館ということですが無料なんですね。施設は古いですが無料で利用できるということです。

○真崎委員

市の運営ではないんですね。共同体なんですね。

○中蔦委員

いいえ、市が運営しています。勤労青少年ホームは利用形態としては貸館というような形です。

○真崎委員

勤労青少年ホームも動きが今の議論と変わりませんよ。いずれはパンクしますよ。検討されているんでしょうけど。

○井川委員

私は、勤労青少年ホームというのは知りません。

○真崎委員

ぜひ行ってみてください。会議室があり、和室があり、就職セミナーもやっているし、色々な講座をやっているということで皆さん行っているようですね。

○井川委員

教室や講座は有料でもいいから NHK 文化センターでやっているような、もう少しプロっぽい企画がいいような気がしますね。

○中蔦委員

ご意見を頂きながら次の検討をしていただければ。

○浜口委員長

そういった声も盛り込んでいって、良い報告書になればいいですね。ほかご意見いかがでしょうか。

○田中委員

せっかく建てた施設ですので、できるだけ存続していただけたらと思うのですが、修繕費等を見ると何とも言えないです。代わりに新しい施設ができれば一番いいのかなとしか。広沢に新しくお風呂の王様ができましたが、その横にスポーツジムを建てて利用者が安くお風呂に入れるとか。

○井川委員

隣に保健センターがあるので、そこで健康管理みたいなものを定期的にできるのはいいと思います。

和光市が今後発展していくうえで、外の人たちに対しても魅力的な市だよというのを発信していくことはすごく大事だと思います。

外に対する見え方というか、和光市としてのブランド戦略というか、そういったところに関わってくるのではないのでしょうか。

例えば農地があって、そこで農業ができて小屋があってとか。和光市をもう少し、いろんな番組で PR してもらおうとか、そういうことができたらいいなと思います。

○中蔦委員

はやりの言葉でいうとシティプロモーションと言いますが、そういうところに特化したセクションがないので、発信をする専門的なところが必要ではないかという話も出ています。

○井川委員

そこに意見をいろいろ言いたいです。

○浜口委員長

田中副委員長はいかがでしょうか。

○田中副委員長

複雑な気持ちですね。非常に近くにいながら1回も利用しなかったもので、今回この委員会が立ち上がるということで、平日2回ほど話を聞きに行ってきました。民間の感覚を持っていますので、残念ながら縮小していくのは仕方ないのかなと思いました。優先順位をつけて直せるところは直して。先ほど見通しという話がありましたけれども、スポーツジムとかお風呂とかガラッと変わるかもしれないけれど、教育とかコンピューターとか話が出ていましたが、違った方向で発展していったらと思います。

○浜口委員長

ありがとうございます。この報告書をこのまま市のほうに提出するというところでよろしいでしょうか。軽微な訂正とかはありますか。

○事務局（平川）

文章的な表現で気になったところがありました。内容を変えるものではなくもう少しわかりやすく修正させていただきたいところについて、ご説明させていただきます。

3 ページ 運営方針の変遷欄 第3回在り方検討委員会の開催を追記。

4 ページ 営業日数当たり→1日当たり

(3)勤労福祉センターの経緯の推移→勤労福祉センターの経費の推移

6 ページ 市民の意見を聴くべき→市民の意見を聴くとともに丁寧な説明

利用不可とならないよう→利用ができなくならないよう

8 ページ 市内スポーツ施設等の設置状況等→市内スポーツ施設等の設置状況

10 ページ 一部ご意見を引用している部分を誤解のないように加筆修正をさせていただきます。と思っております。

○浜口委員長

7 ページ Ⅲ計画上の位置づけ→勤労福祉センターの計画上の位置づけ

先ほど資料2にあった時間短縮については報告書に入れたいのでしょうか。

○井川委員

報告書に入れて、今後アンケートなどを取って検討していくということではないのでしょうか。

○喜古委員

利用実態を見ると時間短縮はやむを得ないけれど、今後もアンケートなどで利用者の声を聴きながら定期的な見直しをしていくという意味ですか。

○井川委員

はい、そうです。

○事務局（平川）

では、今ご指摘いただいたところを10ページに開館時間の短縮をする場合については利用状況を注視し、アンケートの実施等を含めて適切な時期に見直すことが必要であるというような内容の文言を入れさせていただきます

○中蔦委員

これで決定ではなく、決定するために今すぐにでも調査してもらいたいということですか。

○喜古委員

資料からすると、今後変更を予定している案を出している中です。委員からは利用実態はどうなのかという話から、現状使っている団体もそんなに多くないのでこの時間帯の必要性は今のところ低いという話だったと思うのですが、ただ今後も利用実態を鑑み意見を聴きながら見直しを図っていくということですよ。

○井川委員

いつからの話ですか。

○真崎委員

指定管理は9月で終わりなのか、また見直しされるのか気になっているところです。

○事務局（平川）

指定管理での運営は今年の9月までで10月から直営という中で、お風呂とストレッチジムは廃止、時間は1時間短縮、休館日を毎週月曜日にするという形で10月1日以降運営をさせていただきたいというところがございます。

そのうえでご意見いただいた通り、利用者のご意見等アンケートを取りながら見直しの期間を5年では長いというご意見を頂きましたので、毎年状況を確認しながら、3年から5年でニーズに合った形での見直しを図っていきたいというところでご理解いただければと思います。

○浜口委員長

予定は10月からということなんですね。10月から運営変更の予定も報告書に入れてもいいのではないのでしょうか。

○真崎委員

3ページに書いてありますね。

9月までに修理費は出せるのですか。壊れたらどうするんですか。

○事務局（平川）

対応致します。

○浜口委員長

その辺を見込んでいただいて修正をお願いいたします。ほかに何か意見はありますか。

この報告書を5月中旬頃に市長に提出になりますが、またお集まりいただくのは厳しいということですので、軽微な訂正については私に一任していただいてよろしいでしょうか。

○全委員 異議なし

○浜口委員長

本日の審議を踏まえまして、報告書（案）の加筆修正等を行い、委員の皆様には書面で確認していただき、その後、勤労福祉センター在り方検討委員会設置要綱第2条に基づき、市長へ報告書の提出をいたします。

3 その他

○浜口委員長

次にその他ということで事務局から何かありますか。

○事務局（大里）

報告書（案）は5月6日までに委員の皆様にご確認いただき、5月9日に浜口委員長から市長へ報告書の提出を予定しております。

○浜口委員長

和光市勤労福祉センター在り方検討委員会設置要綱第2条に基づき、報告書の提出をもちまして和光市勤労福祉センター在り方検討委員会は終了となり、委員の皆様にお集まりいただき会議は本日が最後となります。委員の皆様、ご尽力ありがとうございました。

本日の議事が終了しましたので事務局にお返しいたします。

4 閉会

○事務局（大里）

それでは本日の会議は終了させていただきます。本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。